教育しまね

2016年(平成28年)2月
Vol.58
島根県教育委員会

特集

島根県公立高校の入試制度が変わります

「島根県公立高校の入試制度が変わります」

～現在の中学校2年生が受検する平成29年度入学者選抜から～

1. 入試制度のどこがかわるか

●新制度（平成29年度以降）

推薦選抜・中高一貫特別選抜
スポーツ特別選抜

変更 → 一般選抜（第1志望校のみ）

変更 → 第2次募集（全日制・定時制）

通信制課程選抜

変更ポイント1

一般選抜で志願できる公立高校は1校のみ。同じ学校内の学科は第1志望から第4志望まで志願できる。

○志願できる公立高校を1校だけにすると、他の公立高校の受検生の志望や成績結果は合否に影響しませんので、その学校に出願して受検した生徒の中からだけで合格者が決まります。

○新たに志願変更や全日制高校での第2次募集を実施することで、中学生が高校を選択する機会を増やすことができます。

○一般選抜の願書受付開始がこれまでより遅くなり、中学生が中学校での学習を最後まで頑張ってから出願できるようになることもメリットと考えています。

変更ポイント2

一般選抜の出願状況発表後、出願高校または志望学科を変更できる。

○一般選抜の願書受付期間終了後に行う出願状況（注1）の発表後、出願高校や志望学科を1回だけ変更できるようにします。これを「志願変更」といいます。

○志願変更の受付は、はじめに出願した学校に必要な書類を直接持参することにしています。その後、志願変更先の学校に出願書類を郵送等で提出します。ただし、隠岐地区内外、島前地区と島後地区間での出願に係る志願変更については、すべて郵送で手続きをすることも可能です。

（注1）各学校・学科の出願者数や競争倍率、地域（通学区）外および県外からの出願者数などの資料のこと。

変更ポイント3

学力検査内容を一部変更する。各教科は50点満点、合計を250点とする。

○各教科（国語、社会、数学、理科、英語）を50点満点にして各問の配点を圧縮することで、部分点の幅を小さくし、採点基準をより明確にします。

○中学校までの学習成果を十分にみることができるように、学力検査では思考力や表現力を重視する内容を増やします。

○国語の検査問題ではこれまで出題していた聴き取り問題から、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことについての力を総合的にみる問題に変更する予定です。

変更ポイント4

入学定員を満たしていない全日制・定時制の高校の学科で第2次募集を行う。

○一般選抜の合格発表時点で第2次募集を行う学校等を公表します。入試検査内容については各学校で定めます。なお、第2次募集の出願には制限があります。

変更ポイント5

松江市内の県立高校全日制普通科で、市内の通学区以外からの受検生が合格できる上限を定員の20%に拡大する。

○県内で唯一、通学区が定められている松江北高校、松江南高校及び松江東高校の普通科において松江市内の通学区外から合格できる入学定員に対する割合を、これまでの5%から20%に拡大して、学びたい学校で学ぶことのできる環境を整えます。

○松江北高校、松江南高校及び松江東高校の3校の普通科・理数科を志願する場合も出願できるのは1校のみとなります。

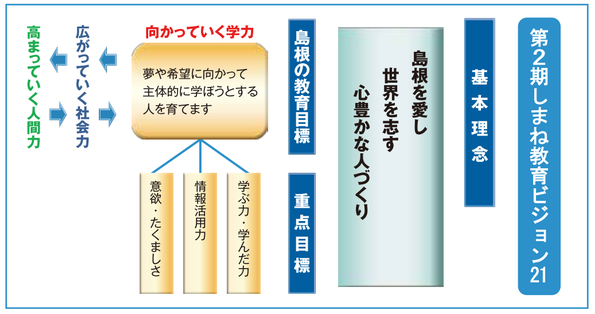
2. 入試制度変更のねらい

高校進学をめざす中学生の「この高校で学びたい。」その思いを大切にしたいと思います。

制度変更のねらい1

高校進学をめざす中学生が自分に合った進学先を選択しやすい入試制度にする。

○島根県教育委員会（以下「教育委員会」）が平成26年7月に策定した「第2期しまね教育ビジョン21」（左図）で示した「夢や希望に向かって主体的に学ぼうとする人を育てます」などの教育目標実現に向けて、高校進学をめざす中学生が進学する学校を選びやすくなるような入試制度に改善します。



制度変更のねらい2

社会を生きていくための資質や能力を測ることのできる入試検査内容にする。

○国際化、情報化など急激に変化するこれからの社会を生きていく子どもたちは、知識・技能だけでなく思考力・判断力・表現力などの学んだ力に加えて、学習意欲、知的好奇心、学習計画力などのいわゆる学ぶ力を身に付ける必要があります。公立高校入試において、幅広い学力を測ることができるように入試検査内容を一部変更します。

教育委員会は、高校進学を希望する中学生が中学校までの学習を通じて基礎学力を身に付けるとともに、各学校の特色を理解し、将来の進路希望に基づいて「この高校で学びたい」と思う学校への進学をめざして欲しいと願っています。

島根県高校入試 検索

携帯電話からアクセスOK

詳しいことは県教育委員会のホームページにある「平成29年度入学者選抜実施要綱」「リーフレット」をご覧下さい。

平成29年度入学者選抜日程

	推薦選抜 等	一般選抜					第2次募集	
全日制・定時制	出願 1/16～	受検	合格内定 1/31	出願 2/6～	出願状況発表 2/10	志願変更※ 受検※ 3/7(3/8)	第2次募集実施校公表 合格発表 3/14	出願 3/16～	受検 3/21	合格発表 3/23

【出願先での受付】 2/15～16
【志願変更先での受付】 2/17～20
※隠岐地区に関する特別措置あり

通信制 出願 2/13～3/28 → 受検 → 合格発表

島根県でインターハイ開催

平成28年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）が中国ブロックで実施され、島根県では4競技5種目が開催されます。

地元島根でインターハイが開催されることについて高校生たちは、「出場に向けて頑張りたい」「支えてくれる人たちのために最高のパフォーマンスが出せるよう努力したい」などと意気込みを語っています。みなさんの応援よろしくお願いします。

頑張れ島根の高校生！

大会愛称 2016 情熱疾走 中国総体

スローガン 美しく咲け君の笑顔と努力の華

島根県観光キャラクター しまねっこ 島観連許諾第 3325 号

インターハイは私たち高校生が支えます！

中国総体では、多くの高校生が大会の準備・運営・広報活動などに携わります。競技が開催される5地区で高校生活動地区推進委員会を組織し、様々な活動に取り組んでいます。

大会まで1年を切った昨年10月、岡山市で開催された300日前カウントダウンイベントでは、ユーモアを交えながらこれまでの取組状況を発表し、会場を大いに盛り上げました。参加した高校生たちは、中国各県の高校生の頑張りが刺激となり、「負けてはいられない。島根の魅力、人の温かさがしっかり伝わる大会にしたい」と決意を新たにしていました。

大会運営については、県内で開催される各種大会に合わせて、競技補助員の養成事業を行い、準備を進めています。

この養成事業では、運動部の生徒をはじめ、放送部など文化部の生徒も補助員として参加し、得点掲示や集票、放送などの練習を行っています。全国から集まる選手たちを「おもてなしの心」で迎え、気持ち良く大会に参加してもらえるよう、本番までにしっかり準備を進めていきます。

INFORMATION

島根の児童生徒が活躍しました!!

スポーツ部門 都道府県、日本中学校体育連盟、全国高等学校体育連盟、各競技団体主催の全国大会で２位以上の成績を収めた団体個人（平成27年2月～平成28年1月）

【第46回全国高等学校選抜ホッケー大会（平成27年３月）】
男子の部　優勝　県立横田高等学校男子ホッケー部
【第30回全国高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会（平成27年３月）】
男子85kg級 クリーン＆ジャーク　２位　県立出雲農林高等学校　片寄槙也さん
【第4回全国高等学校選抜女子セブンズラグビーフットボール大会（平成27年４月）】
女子の部　優勝　石見智翠館高等学校女子ラグビー部
【平成27年度ジュニアクイーンズカップレスリング選手権大会（平成27年４月）】
小学３・４年生の部28kg級　優勝　松江市立内中原小学校　小野こなみさん
【第41回全国中学生レスリング選手権大会（平成27年６月）】
男子の部53kg級　優勝　海士町立海士中学校　中村勇士さん
【第32回全国少年少女レスリング選手権大会（平成27年７月）】
小学生の部６年生34kg級　優勝　松江市立内中原小学校　小野正之助さん
小学生の部６年生32kg級　優勝　雲南市立加茂小学校　黒田佳吏夫さん
小学生の部６年生45kg超級　２位　松江市立川津小学校　小灘真愛さん
小学生の部５年生30kg級　２位　松江市立古志原小学校　富田兆さん
小学生の部４年生36kg級　優勝　松江市立法吉小学校　田窪剛共さん
小学生の部４年生30kg級　２位　島根大学教育学部附属小学校　坂根海琉子さん
小学生の部３年生27kg級　優勝　雲南市立加茂小学校　黒田亜武瑠さん
小学生の部３年生30kg級　優勝　松江市立内中原小学校　小野こなみさん
小学生の部１年生22kg級　２位　松江市立内中原小学校　橋本葵さん
【第32回全日本小学生ソフトテニス選手権大会（平成27年７～８月）】
女子個人（ダブルス）　２位　益田市立高津小学校　濱島怜奈さん
松江市立乃木小学校　野津乙笑さん
【平成27年度全国高等学校総合体育大会（平成27年７～８月）】
飛込競技飛板飛込、高飛込　優勝　松徳学院高等学校　須山晴貴さん
カヌー競技カヤックシングル500m　優勝　県立出雲農林高等学校　原綾海さん
ホッケー競技男子の部　２位　県立横田高等学校男子ホッケー部
【平成27年度全国中学校体育大会（平成27年８月）】
水泳競技女子400mフリーリレー　優勝　松江市立湖南中学校水泳部
柔道競技男子50kg級　２位　松江市立第四中学校　倉橋恭平さん
【第20回全国ジュニアゲートボール大会（平成27年８月）】
ジュニア男子１部クラス　優勝　出雲西高等学校男子ゲートボール部
ジュニア女子１部クラス　２位　出雲西高等学校女子ゲートボール部
【第31回全国小学生陸上交流大会（平成27年８月）】
女子走高跳　優勝　浜田市立国府小学校　尾崎千里さん
【第50回全国高等専門学校体育大会（平成27年８月）】
松江工業高等専門学校
バレーボール競技　男子優勝、女子優勝
バスケットボール競技　男子優勝
剣道競技　男子個人　２位　橋本凌さん
女子団体優勝、女子個人　優勝　中島圭那さん
陸上競技　男子400mハードル　２位　黒田圭亮さん
【平成27年度日本カヌースプリントジュニア選手権大会（平成27年８月）】
カヤックシングル500m　優勝　県立出雲農林高等学校　原綾海さん
【第22回JOC杯全日本ジュニアソフトテニス選手権大会（平成27年9月）】
U-14女子ダブルス　２位　益田市立高津小学校　濱島怜奈さん
松江市立乃木小学校　野津乙笑さん
【第70回国民体育大会（平成27年９～10月）】
飛込競技高飛込　優勝　松徳学院高等学校　須山晴貴さん
カヌー競技カヤック200m、500m　優勝　県立出雲農林高等学校　原綾海さん
陸上競技800m　２位　県立松江北高等学校　福田翔子さん
【第31回全日本ジュニア陸上競技選手権大会（平成27年10月）】
女子800m　優勝　県立松江北高等学校　福田翔子さん
【第46回全国ジュニアオリンピック陸上競技大会（平成27年10月）】
男子Ａ110mハードル　２位　松江市立第四中学校　遠所勇歩さん
【第16回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権（平成27年11月）】
男子の部　優勝　島根県選抜（仁多中学校男子ホッケー部、横田中学校男子ホッケー部）

文化部門 芸術文化の分野における全国規模の大会で最優秀に相当する賞又はそれに次ぐ賞に相当する賞を受賞した団体個人（平成26年12月～平成27年11月）

【第21回全国特別支援学校文化祭（平成26年12月）】
写真部門　りそな銀行賞　県立松江養護学校高等部　松本涼介さん
【第15回全国中学生創造ものづくり教育フェア（平成27年１月）】
木工チャレンジコンテスト［アイディア部門］　特許庁長官賞　出雲市立南中学校　高橋竜樹さん
【第60回青少年読書感想文全国コンクール（平成27年２月）】
小学校中学年の部　文部科学大臣賞　大田市立高山小学校　三國真奈さん
【第51回全国児童才能開発コンテスト（平成27年２月）】
科学部門　低学年の部　文部科学大臣賞　雲南市立大東小学校　小山真由子さん
科学部門　高学年の部　文部科学大臣賞　出雲市立四絡小学校　片岡柾人さん
【第39回全国高等学校総合文化祭滋賀大会（平成27年７～８月）】
小倉百人一首かるた部門　読手コンクールの部
最優秀読手　県立益田高等学校　石川日香莉さん
優秀読手　県立松江北高等学校　寺井萌乃さん
弁論部門　優秀賞　益田東高等学校　小倉遥さん
優秀賞　石見智翠館高等学校　武田誠太郎さん
自然科学部門［化学部門］　奨励賞　県立益田高等学校　自然科学部
【第68回全日本合唱コンクール全国大会（平成27年10月）】
中学校部門　同声合唱の部　金賞　出雲市立斐川西中学校合唱部
高等学校部門　Ａグループ　金賞　出雲北陵中学・高等学校合唱部
【第63回全日本吹奏楽コンクール（平成27年10月）】
中学校の部　金賞　出雲市立第一中学校吹奏楽部

「古代歴史文化賞」受賞作決定

古代歴史文化賞は、最近発行された日本の古代の歴史文化に関する書籍のうち、学術的に優れ、一般読者にも分かりやすく書かれている書籍を表彰するものです。

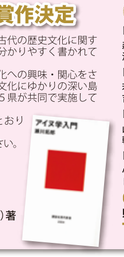
書籍の表彰を通して、国民の古代の歴史文化への興味・関心をさらに高めることを目的としており、古代歴史文化にゆかりの深い島根県、奈良県、三重県、和歌山県、宮崎県の５県が共同で実施しています。

第３回目となる今年度の受賞作品が次のとおり決まりました。

書店等で販売されていますので、ぜひご覧ください。

（大賞）

『アイヌ学入門』
瀬川拓郎氏（旭川市博物館館長）著
講談社



（優秀作品賞）

『一瓦一説　瓦からみる日本古代史』
森郁夫氏（元帝塚山大学教授）著
淡交社

『東国から読み解く古墳時代』
若狭徹氏（高崎市教育委員会文化財保護課課長）著
吉川弘文館

『平安人の心で「源氏物語」を読む』
山本淳子氏（京都学園大学教授）著
朝日新聞出版

『万葉集と日本人』
小川靖彦氏（青山学院大学教授）著
ＫＡＤＯＫＡＷＡ

お問い合わせ先
県教育委員会古代文化センター
TEL 0852-22-6725

保護者向け教育広報紙「教育しまね」をよりよくするため、みなさんのご意見をお寄せください。
〒690-8502 松江市殿町1　県教育庁総務課
TEL.0852-22-5406 FAX.0852-22-5400
ホームページ 島根県教育委員会 検索

「教育しまね」は環境にやさしい「大豆油インク」「再生紙」を使用しています。

しまねがめざす人権教育

ありのままの自分を受けとめ、自分自身の大切さを認めることができる子ども。そのうえで自分と同じように他の人の大切さも認め、お互いに支え合って生きていこうとする子ども。「しまねがめざす人権教育」は、こうした子どもたちを育てることをめざしています。

子どもたちは、自分が一人の人間として大切にされた体験を通じて、他の人を大切にすることを学んでいきます。

子どもたち一人一人が、「自分は大切にされているんだなあ」と実感したり、「人は大切にされる存在なんだ」と気づいたりする。学校では、子どもたちがそのような体験をたくさん積み重ねていけるよう取り組んでいます。

「今」の安心

いじめがあることで安心して勉強することができない。障がいがあることや国籍、民族、子ども自身や親が育った文化などが外国につながっていることで、生活や学習になにか困ったことがある。家族のことや経済的なことなど家庭で心配なことがある……。

子どもたちには、自分の努力ではどうすることもできないことで、安心して学校生活を送れないことがあります。こんな時、学校は、いろいろな機関と協力しながら課題を解決するための取組を行います。

「これから」の力

子どもたちは成長していくなかで、迷ったり悩んだり、時には失敗したりすることもあります。学校は、子どもが自分自身で、あるいは仲間と力を合わせて、考えたり行動したりしながら困難を乗り越える力を育てます。子ども自身が将来をたくましく切り拓いていく力、すなわち「生きる力」を身に付けていくための取組を行います。

学校では、子どもの思いや願い、生活の様子や人間関係などの背景を見ようとする教職員一人一人の姿勢、そして学校全体で力を合わせて子どもたち一人一人をしっかり支えていこうとする姿勢を大切にしています。

学校・家庭・地域で協力して子どもたちを育てていくことができるよう、日ごろからの情報交流や学校の活動へのご協力をお願いします。

▲生徒集会（大田市立第三中学校）
だれもが安心してすごせる学校づくりを子どもたち自身が考える活動をしています。

子どもたちが安心して学校ですごせるよう、学校では、いじめのない学校づくりやわかりやすい授業、就学を支援する制度のお知らせなどの取組を行っています。

▲ひろせ花いっぱい運動（安来市立広瀬小学校）
子どもたちが、家庭や地域の大人といっしょに花の苗を植える活動をしています。

大人が子どもを一人の人間として大切にする態度や、大人同士がお互いを大切にし合いながら生活する姿。これらも、子どもたちの「自分自身や他の人を大切にする力」を育てていくのに重要な環境です。

島根県教育委員会人権同和教育課のホームページで就学資金等の情報をまとめて紹介しています。

島根県　人権同和教育課　検索

しまね子ども絆づくりサミット

全国でいじめの問題が大きく報道される中、いじめの未然防止の取組を県内で広く共有するため、平成27年11月15日に「しまね子ども絆づくりサミット」を行いました。小学校は、雲南市立木次小学校と邑南町立石見東小学校の2校、中学校は、安来市立第三中学校、雲南市立大東中学校、吉賀町立吉賀中学校の3校、高等学校は、松江南高等学校、浜田商業高等学校、津和野高等学校の3校から、合計20名の子どもたちが参加しました。

昨年度の「全国いじめ問題子供サミット」の結果報告、校内での絆づくりの取組発表、いじめや絆づくりに関するグループでの話し合いを行いました。

大東中学校は、日常生活の取組、生徒会の取組、生徒による行事（卒業式、入学式、体育祭、文化祭等）の企画運営、PTAと連携したメディアと食に関するふれあい宣言など、特色ある取組について発表しました。

松江南高等学校は、二年生がいじめ問題などさまざまな人権についての課題の中からテーマを一つを選んでポスターを作成し、一年生に向けて発表した「人権学習」について発表しました。

浜田商業高等学校は、全学年の生徒でつくった店舗を運営した「浜商デパート」、公民館と交流しながら地域のお祭りの計画やPRに取り組んだ「地域活動」などについて発表しました。

▲グループ協議の様子

いじめや絆づくりに関するグループでの話し合いでは「いじめをなくし、児童生徒同士が絆を深めていくには、学校でどのようなことができるだろうか？」をテーマに、小学生、中学生、高校生が一緒になって熱心に話し合いました。あいさつなどのコミュニケーションの大切さや、一つのことに協力しながら取り組む経験の重要性について意見が出ました。

サミット後、次のような感想が聞かれました。

「今回話し合った絆を深めるためにできる活動を、今後の学校での活動に生かせたらいいなと思いました。有意義な時間を過ごせてよかったです。」

「いじめを解決していくには学校全体で立ち向かっていくしかないと思います。今回のサミットは他校の取組を知ることができる良い機会となりました。」

今回のサミットを通して、学校の良い取組を共有したり、子どもたちの絆づくりやいじめに対する考えや思いを深めたりすることができました。

家庭・学校・地域をつなぐ 教育しまね

地域の力を結集し、地域で子どもを支えていきましょう！

今の時代、子どもたちには、周りの人と力を合わせて新たなものをつくりだしたり、課題を解決したりする力が求められています。

子どもたちのそのような力は、学校や家庭だけでなく、多様な人と出会い、いろいろな体験を重ねていく中で育まれます。そのためには、地域の大人が力を合わせてその環境を作っていくことが重要です。

県教育委員会では、地域の宝である子どもたちを地域全体で支える様々な取組を1つに「結集」した**「結集！しまねの子育て協働プロジェクト」**を平成24年度にスタートしました。具体的には、**「ふるさと教育」「学校支援」「放課後支援」「土曜日の教育支援」「家庭教育支援」**を通じて、市町村の実態に応じた仕組みづくりが進められています。

例えば、**「学校支援」**では、登下校の安全指導や学校の環境整備、部活動指導、ミシン学習の補助といった授業中の学習支援など、様々な場面で地域の方に支えられています。

また、共働きの家庭が多い本県では**「放課後支援」**や**「土曜日の教育支援」**においても、地域の方に支えられています。

県や市町村では、地域で教育支援活動に携わる方を対象に、子どもとの関わり方や子どもが興味を示す遊びについての講習、人権に関する学習など、知識や資質を高める研修を計画的に行っています。

子どもたちの教育活動に関わる地域の方々の数は年々増えてきましたが、今後は後継者の育成も課題となっています。

地域の担い手となる子どもを地域ぐるみで育てていくため、大人の皆さんが一人一人、子どもたちのために何ができるのか、何が伝えられるのか、一緒に考え、行動してみませんか。

▲学校支援の様子

▲見守り活動の様子

2月22日は竹島の日
～竹島に関する学習の充実を期待～

「韓国との友好のためには、領土問題には触れない方がいいのでは？」という考えがありますが、そうではありません。問題を抱えたまま、相手国との相互理解や信頼を深めることはできません。真の友好関係を築くために、領土問題は一刻も早く解決する必要があります。

竹島は歴史的事実に照らしても、国際法上も我が国固有の領土であるにも関わらず、現在、韓国に不法に占拠されています。この問題について、我が国は、国際法にのっとり、冷静かつ平和的な解決を目指しています。そのためには、「竹島は我が国固有の領土」という事実への理解が、国民の間できちんと深まる必要があります。

一昨年、竹島、尖閣諸島を含む領土に関する教育の一層の充実が図られるよう、中学校及び高等学校の学習指導要領解説の一部が改訂されました。この改訂を受けて初めて検定を通過した中学校社会科の教科書が、今年の4月から全国で使用されます。領土に関する記述が充実したとの報道があったことは、記憶に新しいところです。小学校では中・高のような学習指導要領解説の改訂はなされていませんが、昨年4月から使用されている現在の教科書には、我が国の領土について以前より詳しく記述されています。

島根県ではこれまで、竹島学習副教材DVDや竹島学習リーフレットなどの県独自の教材・資料を活用して竹島に関する学習を推進してきましたが、今後は全国で竹島に関する学習が充実し、竹島問題の解決へとつながっていくことを期待します。

「親学プログラム」・「親学プログラム2」を体験してみませんか？

県教育委員会では、親同士や地域の大人たちが子育ての不安や悩みを出し合い、親や大人としての役割や、子どもとの関わり方への気づきを促す学習プログラム**「親学プログラム」・「親学プログラム2」**を開発しました。11のテーマにそって、46のプログラムで構成されています。

「親学プログラム」は、「楽しく」「互いに」「体験的に」学び合うことができるように参加型の学習を取り入れています。

また、このプログラムを進行する**「親学ファシリテーター」**は、県内に361名（平成27年3月現在）おられます。

保育所、幼稚園、小中学校の保護者会やPTA研修会、公民館活動等の中で活動され、平成22年～26年度までに延べ2万人の方がこのプログラムを経験されました。

今後も、「現代版井戸端会議」がそれぞれの地域でさらに広がるよう、「親学プログラム」の普及・啓発を進めていきます。

【参加者の感想】

優良団体として表彰されました

平成27年度 優良PTA文部科学大臣表彰

優良PTA文部科学大臣表彰は、優秀な実績を上げているPTAを表彰し、PTAの健全な育成、発展に寄与することを目的として毎年行われています。今年度は、次の2団体が表彰されました。

◇松江市立大庭小学校PTA

3種類の広報紙を発行し、積極的に会員へ情報提供を行っていることや、学校支援活動に協力をしていることなどが評価されました。

◇大田市立鳥井小学校PTA

家庭教育についての研修を積極的に行っていることや、地域行事に参加し、地域おこしに協力していることが評価されました。

平成27年度 優良少年団体

島根県教育委員会教育長表彰

優良少年団体表彰は、明るく住みよい地域づくりに貢献する活動を実施している少年団体を表彰しています。今年度は、次の2団体が表彰されました。

◇知夫村子ども「皆一踊り・歌舞伎」保存会

村の伝統芸能の継承に寄与するとともに、地域住民との交流を深め、子どもたちにふるさと知夫への愛着や、その一員としての自覚を持たせています。

◇平田高等学校JRC部

施設訪問や交流活動、救急法の啓発、ボランティア活動への参加、募金活動等、積極的に活動を展開しています。

▲知夫村「皆一踊り・歌舞伎」保存会

▲平田高等学校JRC部